

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年7月31日

派遣者氏名（専門分野）	山本 一 （ 東洋史学 ）
-------------	---------------

派遣期間	2012年 4月 21日 ～ 2012年 6月 20日
------	-----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
中国	北京	第一歴史档案馆

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

■基本情報

- ・住所：北京故宮西華門内
- ・電話番号：0086-10-63099011
- ・URL：http://www.lsdag.com/

・第一歴史档案馆 入口



■交通アクセスと開館時間

- ・バス：5路 西華門。1路など 天安門西
- ・地下鉄：1号線 天安門西

当該館は北京の故宮（昔の紫禁城）内の西側に設けられており、訪問する際には西華門から入場する必要がある。西華門へは5路のバスの西華門で下車するか、バス・地下鉄の天安門西駅で下車し、南長街という道を10分程北上すると到着する。

- ・開館時間：月～木 8：00～16：00、
金 8：00～15：00。共に昼休みはない。

■必要書類と手続方法

- ・必要書類：中国研究機関の紹介状。パスポート
- ・手続方法：最初に訪問する際には、中国の研究機関から発行してもらった紹介状が必要である。まずは西華門の警備員の詰所で氏名・電話番号・日時・持ち物（中国語で鞆を意味する「书包」でよい）・来場理由（档案調査を意味する「查档」でよい）等を所定の用紙に記入し、半券を預かる。故宮に入場し、案内標識に従って北に300mほど行くと、档案馆に到着する。档案馆の入り口でも受付で氏名・日時等を来客登録ノートに記入する。記入後、また館内案内に従って「利用室」へ行き、再度氏名・日時等を利用者登録ノートに記入する。このように複数回の登録が必要なのは、最初の登録が故宮への入場、次が档案馆への入館、最後が閲覧室への入室と、それぞれで訪問者をチェックしているからであろう。

利用室で紹介状を渡し、档案を見に来た旨を伝える。そしてパスポートと引き替えにロッカーのカードキーをもらい、ロッカーに鞆を預ける。閲覧室に持参できるのは、ノート・鉛筆・消しゴム・ボールペン・携帯電話などのみで、カメラやノートPCは禁止である。必要な持ち物をもって閲覧室で史料を閲覧する。なお

紹介状は、最後に閲覧した日から3ヶ月は有効であり、3ヶ月以上経過して再度訪問する場合は、新たに紹介状が必要ということである。

帰る際には、利用室で離間時間の記入とカードキーを返却してパスポートを受けとり、档案馆の入り口で離館時間を記入し、西華門で入場の際に受けとった半券を返却する必要がある。

■閲覧方法

当該館には明清時代の行政文書である档案史料が1000万件以上所蔵されている。現在随時、未刊行史料のデジタル化が進められており、閲覧方法はマイクロフィルムかPCで画像にアクセスするかの2通りがある。まずは閲覧室の外にある目録から必要な史料を探す。目録は史料の種類によって、時代順・地域別・内容別等で分類されているものもあるが、档案の題名は簡単なものしか付されていないものもある。

・**マイクロ閲覧**：清代の档案史料は「題本」と「奏摺」に大別される。ここでは両者の史料的差異については言及しないが、閲覧方法としては、題本はマイクロによる閲覧、奏摺はPCによる閲覧と大まかに分類できるが、自身の閲覧したい史料がどちらなのかは係員に聞く方がよい。

目録から目的の題本が見つければ、備え付けの「调档单」（閲覧申請書）に記入する。申請を受けて係員がマイクロを取りに行く時刻は、8:00、10:30、13:30、14:30と定められている。一度に申請できるマイクロは最大5巻である。申請してしばらく待つと、係員がマイクロを渡してくれ、閲覧室にあるマイクロリーダーで閲覧する。

PCやカメラの持ち込みは不可なので、筆写するか、プリントアウトを申請する必要がある。プリントアウトについて、一度の訪問（訪問した日それぞれというわけではなく、一度のまとまった訪問期間と解釈される）中、一個人（個人的な訪問の場合）ないしは一団体（団体で訪問している場合）につき档案20件（20枚ではない）が限度となっている。プリントアウト申請から受け取りまで、およそ3日（休日を含まない）が必要である。

また筆写した史料については、閲覧最終日に係員が筆写内容を検査するので、訪問期間中に筆写した史料を全て係員に渡さなくてはならない。申請者の場合、筆写した量はノート5冊分で、その検査は15分ほどで終了した。

・**PC閲覧**：申請者はもっぱらマイクロの筆写につとめていたため、PC閲覧については閲覧室にある「閲覧規則」からの知見のみを記す。現在PCで見られる档案史料は奏摺が主である。まず閲覧室の係員にPC閲覧したい旨を伝え、データベースにアクセスするためのログイン名とパスワードを教えてくれる。データベースでは、人名・キーワード等から検索が可能である。

目的の史料が見つければ、筆写もしくは閲覧したPC付属のテキスト入力ソフトを使ってファイルを作成し、そのファイルをUSBメモリに保存して持ち帰ることができる。この場合、閲覧した日の帰り際に、係員にUSBメモリを渡し、内容のチェックを受ける必要がある。

■雑感

当該館には食事をする場所が無いので、昼食を取る際には故宮の外に出てレストラン等に行く必要がある。それが面倒で時間を節約したい場合は、軽食を持参することも可能である。閲覧室外の休憩場所で軽食をとることができる。

申請者の閲覧中、中国人だけではなく、日本人をはじめとする外国人も多く閲覧に訪れていた。受付や閲覧室の係員はみな親切で感じが良く、外国人慣れしている印象を受けた。ただ英語はほとんど通じないと思われるので、最低限の中国語能力が必要とされることは、中国における他の文書館や図書館と同様である。



・第一歴史档案馆 閲覧室

（手前がPC閲覧用のPC、奥がマイクロ閲覧用のマイクロリーダー）